



「見たり、聞いたり、探ったり」No.215

通算 No.367

青 木 行 雄

時代を見つめて
 神社本庁 長老
 平安神宮名誉宮司、九條道弘氏、帰幽

平成29年11月9日(木)東京駅発午前8時の新幹線「のぞみ」に乗車した。

途中で半分雪をかぶった富士山が朝日をあびて輝いていた。今日は国立京都国際会館において、平安神宮宮司「九條道弘」氏の平安神宮葬の日で心は富士山に入道雲の心境であった。

1991年(平成3)2月に平安神宮の宮司に就任してから26年間数々の要職を歴任した。そして私の所属する奈良の春日大社藤裔会の会長を引き受けてから27年になる。年1回理事会と総会があって春日大社で年2回程奈良でお会いし、神社の勉強もさせてもらった。大変温厚な方で皇室の雰囲気こそなえた上品な紳士であった。そんな関係で、平安神宮の会員にもなって京都へも総会に参上しここでも何回かお会いした。

このたび京都行きとなったのでまず、平安神宮にお参りして、ありし日の思い出にもひたった。ちょうど紅葉の時期で京都はもえていた。七五三の近い時でもあったので子供連れの親子も目立った。

今回の葬儀はあの国立京都国際会館大広間で約1,500人程の参列者があり、さすがに日本国中の神社宮司があれば程集合することは少ないと思うが、特別な方の玉串拝礼が長く2時間以上かかった。神社本庁の長老ということで特に各地の宮司が多く300人以上は参列していたのではと思う。

平安神宮からの冊子「^{へいあんらくどう}平安楽土」第75号誌に書かれている。式場の様子を加味して記した。



※時速300kmの「のぞみ」の車窓よりパチリ。場所は新富士の製紙工場付近。この3日後に大雪で富士山は真白になった。



※京都平安神宮の本殿である。ここに「九條道弘宮司」は26年間、日本の安全を祈り、つとめられた。儀式の前に参拝する。

神社本庁 長老 平安神宮名誉宮司
九條道弘大人命 平安神宮葬

洛中の紅葉が色づき始めた平成29年11月9日13時30分、去る9月16日に帰幽された当神宮第14代宮司、九條道弘大人命の平安神宮葬が左京区の国立京都国際会館にて田中恆清神社本庁総長齋主のもと、池田厚子様、島津久永様・貴子様ご夫妻を初め各界より約1,500人が参列し、しめやかに斎行された。

ご霊前には、畏きあたりより祭楽料が下賜され、また皇太子同妃両殿下より御紋菓の御供を賜った。

次第は修祓に始まり、茶湯の儀では、葬儀委員長の裏千家15代・前家元である千玄室氏より一碗の茶が奉げられ、「お酒好きの道弘さん、この一碗のお茶をゆっくり召し上がって、愛する奥様やご家族を見守ってあげてください」とお別れの言葉を述べられた。

祭詞奏上の後、千玄室葬儀委員長の言葉に「大輪の菊と共に 行くと友」の詞も歌われ、儀式に花をそえられた。

又、北白川道久神社本庁統理、寺井種伯大阪天満宮宮司、宮内義彦オリックス(株)シニア・チェアマンより、それぞれ故人を偲び心温まる弔辞が述べられた。

玉串拝礼、葬儀委員長挨拶の後、長男で喪主の九條道成氏より、「おだやかな顔で、最期まで父らしく振舞っていました」との挨拶があった。

凡そ3時間に亘る長時間の葬儀にも関わらず厳粛に執り行われ、最後まで大人命の御霊に参列者が別れを惜しんだ。

尚、神社界への生前の功績を称えられ、9月15日付で神社本庁より長老の敬称が追贈された。

以上、私心を添えて記したが、大変立派な葬儀であり、天皇につかえる五摂家大御所の儀式を目のあたりにして、上階の認識を新たにされた参列であった。

九條道弘氏の略歴を記す。

1933年(昭和8年)12月13日 東京都港区赤坂にて九條家第34代 公爵 九條道秀の長男として出生

1957年(昭和32年)3月 関西学院大学文学部 卒業

1957年(昭和32年)4月 (株)文化放送に入社

1973年(昭和48年)11月 小石川大神宮出仕



※京都、国立京都国際会館の面玄関。この会場左側に葬儀の会場があった。参列者1,500人の大集会であった。



※秋の京都は又すばらしい紅葉でもえていたが悲しい事で今回の京都行きは淋しいかぎりであった。



※「九條道弘」長老の葬壇。豪華な飾り付であったがシンプルでもあった。



※神式による葬儀は仏式と違い又特別な雰囲気であった。1,500人という参列者。

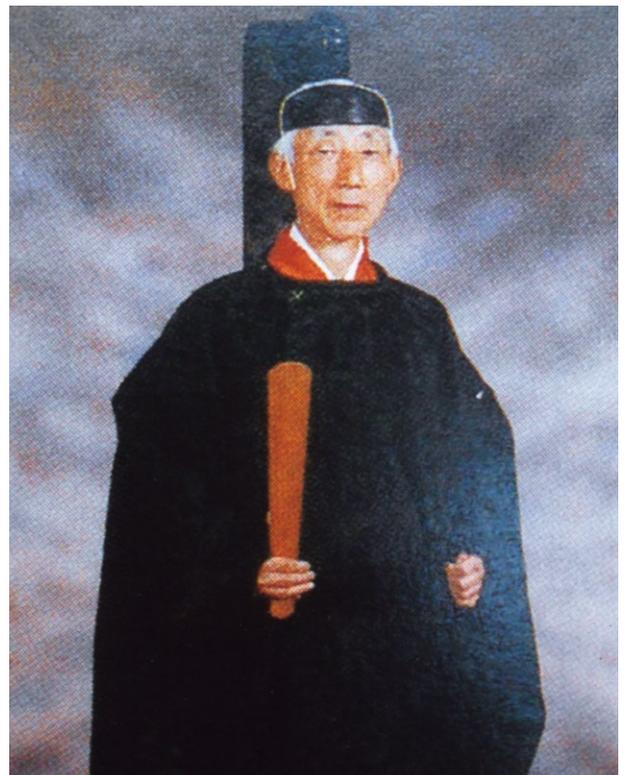


※葬式参列者の人々。有名な方々もおられた。



※生花の供花名が通路にずらりと並んでいた。葬儀委員長の千玄室氏を初め近衛忠輝日赤社長の名前も見られる。

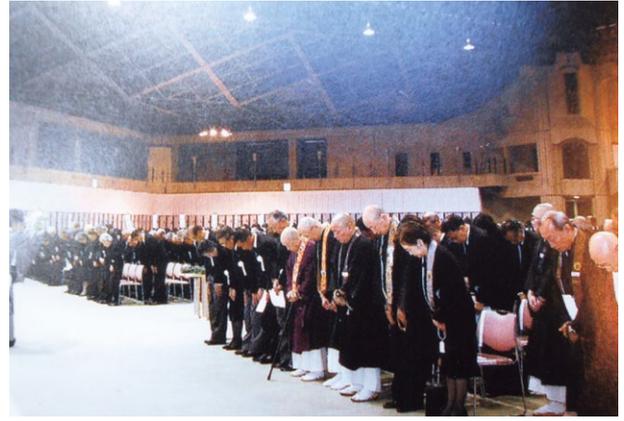
- 1975年(昭和50年)2月 小石川大神宮禰宜
- 1984年(昭和59年)5月 明治神宮禰宜
- 1988年(昭和63年)9月 明治神宮奉賽部長
- 1990年(平成2年)10月 春日大社藤裔会会長
- 1991年(平成3年)2月 平安神宮 宮司
- 1991年(平成3年)3月 神社本庁参与
- 1991年(平成3年)5月 天皇皇后両陛下平安神宮御親拝 奉仕
- 1993年(平成5年)4月 京都府神社庁理事
- 1994年(平成6年)3月 平安神宮御鎮座100年祭 奉仕
- 1995年(平成7年)3月 神職身分1級
- 1995年(平成7年)3月 階位 浄階
- 1998年(平成10年)7月 時代祭行列仏国パリ市巡行
- 2001年(平成13年)8月 京都別表社会 会長



※九條道弘長老のありし日の凜としたお姿。



※葬壇に向う神宮の方々。



※葬儀の始まる前の拝礼。お寺の僧侶もかなり参列していた。

2002年(平成14年)2月 神職身分 特級
 2017年(平成29年)4月 平安神宮 宮司退任
 2017年(平成29年)5月 平安神宮 名誉宮司
 2017年(平成29年)9月 神社本庁 長老
 2017年(平成29年)9月16日 帰幽

ご会葬御礼

謹啓 平安神宮名誉宮司、九條道弘 大人命の平安神宮葬に際しましては ご多用の処お心こもる御会葬賜り洵に有難く 衷心より厚く御礼申し上げます

九條家に所縁の深い京都の平安神宮にて約26年間 大神様のご加護と皆様方のご厚情により恙なく奉任出来得ました事を 大人命もさぞかし感謝されておること、存じます

今後も関係者一同 大神様が目指された「平安の世」実現に向けて神威発揚に努めて参る所存でございますので 皆様にはこれまで同様 変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます

ここに謹んで御霊永遠に安かれとお祈りいたし 略儀ながら書中を以て謹んでご会葬御礼のご挨拶まで申し上げます

謹白

平成29年11月9日



※葬儀委員長裏千家千玄室様の挨拶である「大輪の菊と共に」と友」の詞が印象に残る。

葬儀委員長 平安神宮 責任役員 千 玄室
 葬儀委員 平安神宮 責任役員 吉田忠嗣
 葬儀委員 平安神宮 宮司代務者 本多和夫

喪 主

九條道成

これ程の神式葬儀に参列したのは初めてであり、参列者の人数も1,500人という大勢の方であった。仏式の焼香にあたるものとして玉串奉具が行なわれた。何と2時間以上かかった。そして神前なので手は合わせるが音が出ないように気を配る。数珠は使わない。等々仏式との違いはあるが葬儀にはある独特の雰囲気がある。出来ればさけたい儀式である。

平成30年1月3日 記



平安神宮

出典：<https://ja.wikipedia.org/wiki/>